

令和8年度新任学校管理職研修会

## 主体的な学びの実現について

令和8年3月27日  
広島県教育委員会  
義務教育指導課

## 次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方

～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

### ① 深い学びの実装 (Excellence)

主体的・対話的で

主に第2,3,4,6章  
(生きて働く「確かな知識」の習得、資質・能力育成の具体化・深化、「好き」を育み「得意」を伸ばす、情報活用能力の抜本的向上、個別最適な学び・協働的な学び等)

### ② 多様性の包摂 (Equity)

主に第3,7章  
(調整授業時数制度、裁量的な時間、個別の児童生徒に係る教育課程の仕組み、デジタル学習基盤を活用した学習環境デザイン、個別最適な学び・協働的な学び等)

### ③ 実現可能性の確保 (Feasibility)

主に第5,7章  
(授業時数の適正化・平準化、教科書の精選・構造化、裁量的な時間など様々な方策による教師・子供双方の「余白」の創出、カリキュラム・マネジメント等)

学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備  
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

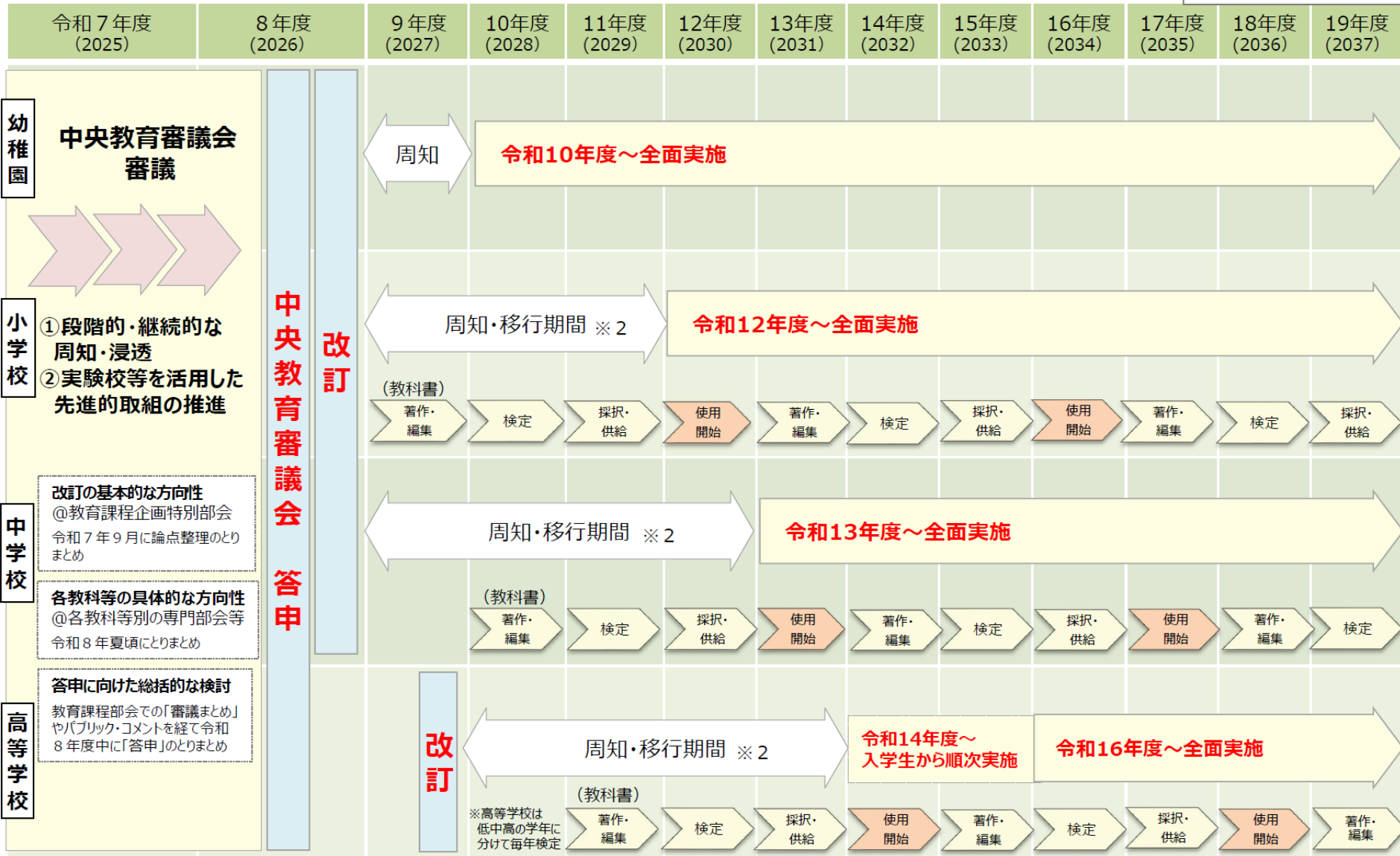
生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、  
自らの人生を舵取りすることができる 民主的で持続可能な社会の創り手 をみんなで育む

# 学習指導要領等の改訂に関するスケジュール（イメージ）

## 学習指導要領等の改訂に関するスケジュール（イメージ）

※前回改訂と同様のスケジュールと仮定した場合であり、今後変更の可能性がありうる。

令和7年12月15日  
 教育課程部  
 則・評価特別部  
 参考資料 3



※2 移行期間の具体的な時期や先行的に実施する内容については今後検討

※3 特別支援学校学習指導要領（幼稚園及び小学部・中学部）については、幼稚園・小学校・中学校、特別支援学校学習指導要領（高等部）については、高等学校と同様のスケジュールを想定

# 広島県・広島県教育委員会における計画期間

計画名	R3	R4	R5	R6	R7	R8～	期間	
安心 ▷ 誇り ▷ 挑戦 ひろしまビジョン (広島県総合計画)							10年間 (R3～R12)	
安心 ▷ 誇り ▷ 挑戦 ひろしまビジョン アクションプラン							5年間 (R3～R7)	
広島県 教育に関する大綱							次期大綱	5年間 (R3～R7)

## 1 児童生徒の成長と発達を支える生徒指導

誰もが安心して学べる環境づくりは必要不可欠。 日常的な活動を通じて子供たちの成長と発達を支える生徒指導が全ての教育活動の基盤として機能するとともに、「指導の個別化」や「学習の個性化」など、個別最適な学びを実践することにより、安心して通え、学ぶ楽しさを感じることができる学校づくりを推進する必要がある。

## 2 持続発展する教育のための教員の育成

教員の年齢構成は、大量退職に伴う大量採用が続いており、若い教職員が増えていることから、キャリアステージに応じて求められる資質・能力の育成がより一層重要である。

また、生成AIが飛躍的に発展する状況の下、個別の知識の集積にとどまらない概念としての習得や深い意味理解を促し、学ぶ意味、社会やキャリアとのつながりを意識した指導力が求められている。

このため、個々の教員が多様な実践を重ね、成長するための意図的・計画的なジョブローテーションや組織づくり、主体的な学びの定着に向けた校内OJTの質的向上及び体系的な校外研修を組み合わせた人材育成により、学校の中核を担うことができる教員の育成をはじめ、教員の指導力向上を図る必要がある。

### 3 リアルな体験の充実とデジタルの効果的な活用

自律的に学ぶ自信がある子供、自分で課題を立て探究に取り組む子供、自分の考えを持つ子や夢を持つ子供の割合が低く、学びに向かう力等の育成は道半ばである。

このような中で、主体的に学び、自らの人生を舵取りする力の育成や多様で豊かな可能性を開花させる教育の実現を図るためには、一人一人が初発の思考や行動を起こしたり、好奇心を深掘りする中で、学びを主体的に調整し、自身の豊かな人生やより良い社会につなげていくことが必要である。

このため、一人一人が初発の思考や行動を起こしたり、好奇心を深掘りする動機付けとして、自然体験、職場体験・キャリア教育、異文化体験などのリアルな体験機会を充実させる必要がある。

また、リアルな体験をデジタルで支えるとともに、ICTを学校教育の基盤的なツールとして効果的に活用し、学びの充実を図る必要がある。

## 2 学びの変革の推進

### (1) 質の高い、深い学びの実現

#### 【「基礎・基本」の徹底】

- 児童生徒が社会や生活で直面する未知の状況においても課題解決に繋がられるよう、児童生徒一人一人の学びの土台となる「基礎・基本」を確実に身に付ける教育活動を推進する。

#### 【「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進】

- これからの時代を生きるために必要な資質・能力を育成する質の高い、深い学びの実現を目指し、児童生徒一人一人が初発の思考や行動を起こし、好奇心を深掘りする中で、学びを主体的に調整し、自身の豊かな人生やより良い社会に繋がっていきけるような活動を取り入れ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の一層の具現化・深化に向けた授業改善を推進する。

## 2 学びの変革の推進

### (1) 質の高い、深い学びの実現

【学校教育の質の向上に向けた、リアルな体験の充実とデジタルの効果的な活用】

- 体験活動等で収集したデータを分析し特徴を捉えたり、議論した内容を共同編集するなどの活動を充実させるとともに、多様なデジタル教材等を効果的に組み合わせることで、リアルな体験の充実とデジタルの効果的な活用を推進する。

【生成 A I 等に関わる教育の充実、情報活用能力の育成強化】

- 情報活用能力の育成のため、生成 A I 等を含む情報技術の仕組みや背景等の特性の理解と併せて、情報技術が認知や行動に与えるリスクに対応し適切に取り扱い、情報技術を効果的に活用することができるよう、発達段階に応じて系統的な指導の充実を図る。

## 5 誰もが安心して学習できる環境づくり

### (1) 学習指導と生徒指導の一体化

- 児童生徒の成長や発達を支える生徒指導が、日常的に全ての教育活動の基盤として機能し、安全・安心な学校・学級の教育的環境を整える。
- 学校生活の中心である授業において、児童生徒一人一人が自己の存在感を実感しながら、共感的な人間関係を育み、自己決定の場を豊かにもち、自己実現を図っていけるよう、全ての児童生徒を対象とし、分かる喜びや学ぶ意義を実感できる授業づくりを充実させる。

### (2) 多様な子供たちに応じた教育の充実

- 支援を必要とする子供たちの長所・強みに着目することを重視し、学習のつまずきに対応した学習支援や教育費負担の軽減等の経済的支援、特定分野に特異な才能のある児童生徒や不登校等児童生徒への支援に加えて、外国人児童生徒に対する日本語指導を一層充実させるなど、学校内外で多様な学びの場を確保するとともに、学校、地域、関係機関との連携による子供たちの学びを切れ目なく支える体制を整備する。

# 学びの変革の推進

## 令和8年度「学びの変革」の取組の重点

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、  
安全安心な学習集団のもと、デジタル学習基盤の普段使いで、  
学びの質を向上します。

## 重点イメージ

学習指導



生徒指導

重点

デジタル学習基盤の普段使い

個別最適な学びと協働的な学びの  
一体的な充実に向けた授業づくり

深い教材研究

個の見取り

個への支援

児童生徒の実態を踏まえた教材研究

アセスメントツールの活用

授業参観シートを活用した個の見取り

重点

安全安心な学習集団づくり

生徒指導の実践上の視点を  
踏まえた集団づくり

共感的な人間関係の育成

自己存在感の感受

自己決定の場の提供

安全安心な風土の醸成

褒めるから認める指導へ

学級経営・学級集団づくり

児童生徒同士、教師と児童生徒の信頼関係の構築

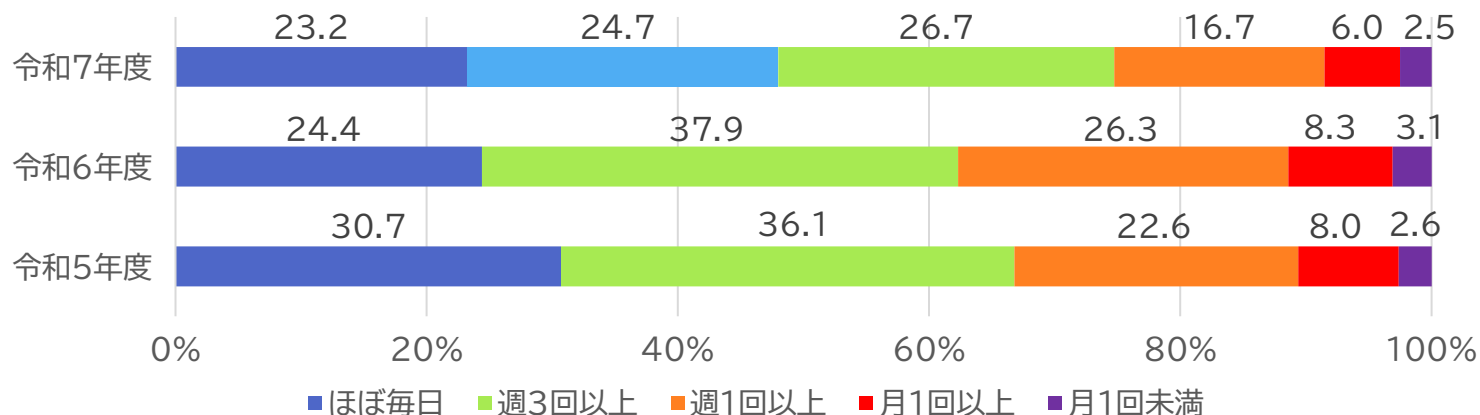
# 学びの変革の推進

## 一人1台端末の活用状況

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

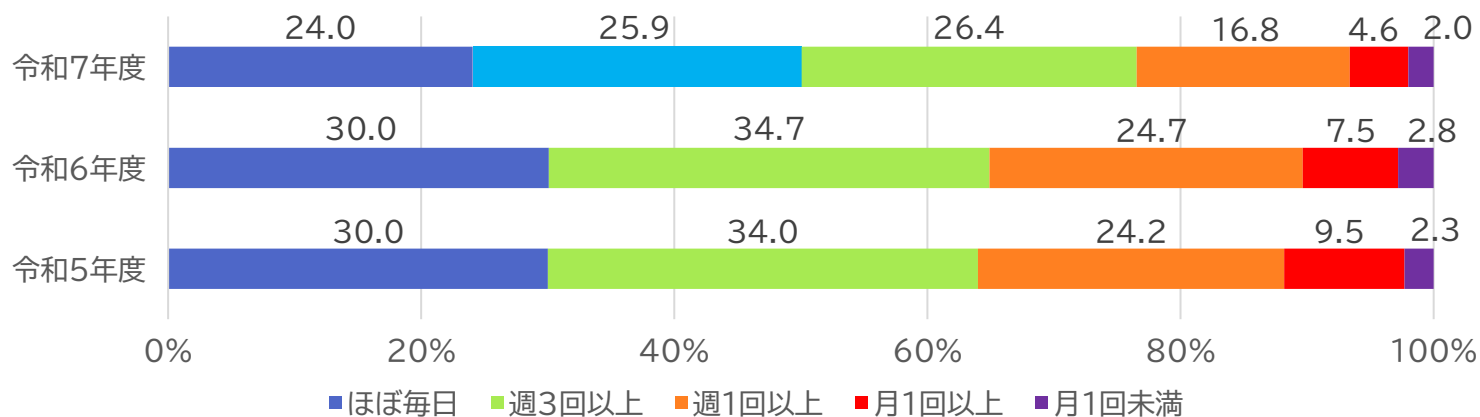
児童

**R7** ほぼ毎日(1日に複数回+1日に1回) 47.9%(全国46.7%) +1.2pt



生徒

**R7** ほぼ毎日(1日に複数回+1日に1回) 49.9%(全国53.2%) -3.3pt



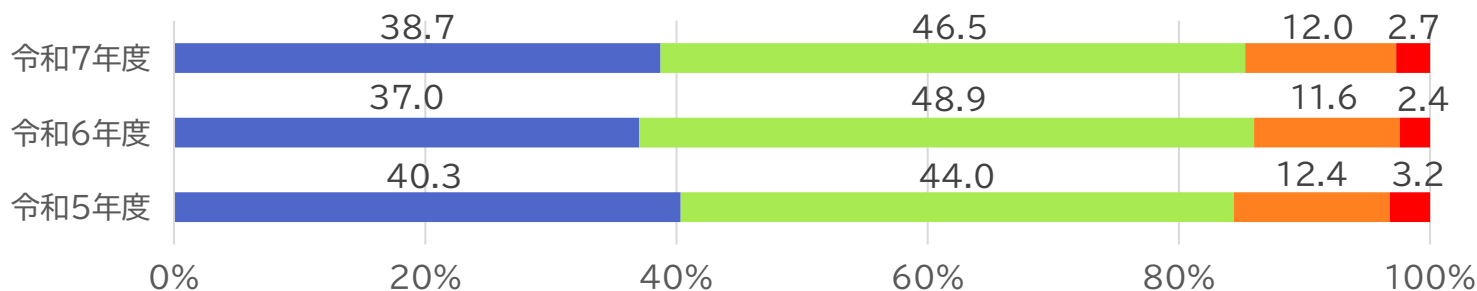
# 学びの変革の推進

## 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る状況

**個別最適な学び** 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

児童

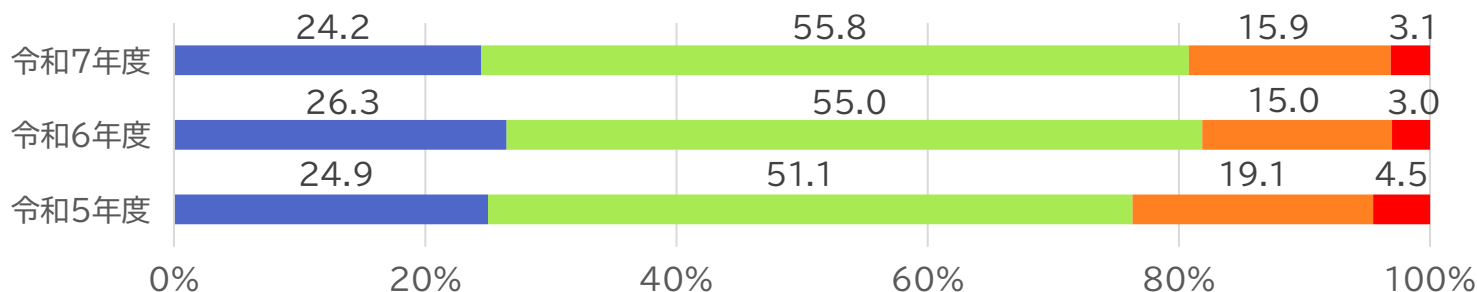
**R7 当てはまる 38.7%(全国34.4%)+4.3pt 肯定的回答 85.2%(全国83.4%)+1.8pt**



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

生徒

**R7 当てはまる 24.2%(全国22.1%)+2.1pt 肯定的回答 80.0%(全国79.3%)+0.7pt**



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

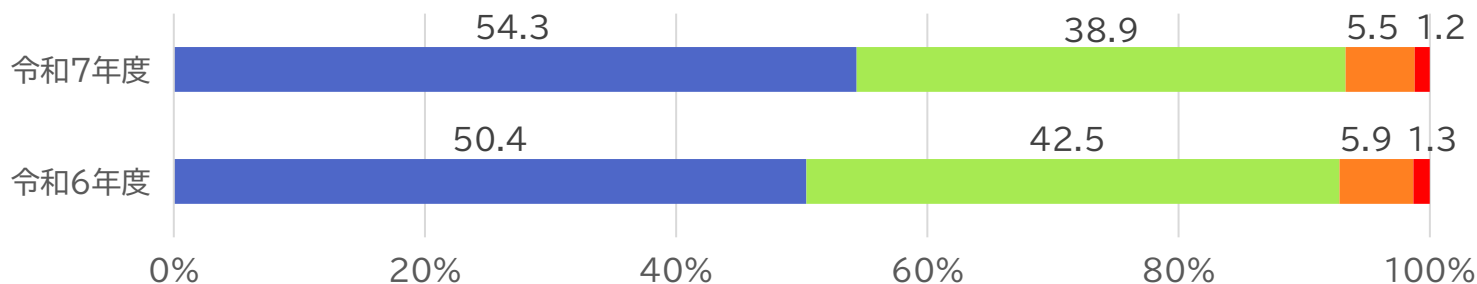
# 学びの変革の推進

## 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る状況

**協働的な学び** 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。(R6～)

### 児童

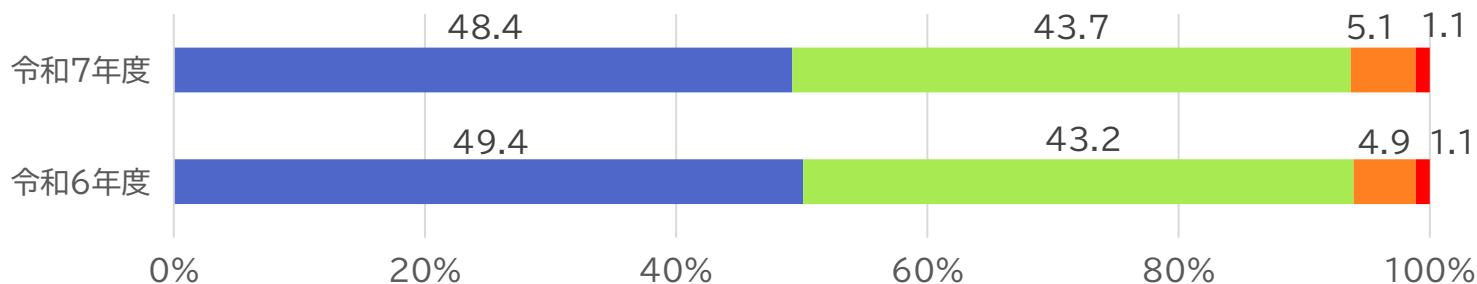
**R7 当てはまる 54.3%(全国49.9%)+4.4pt 肯定的回答 93.2%(全国91.9%)+1.3pt**



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

### 生徒

**R7 当てはまる 48.4%(全国45.5%)+2.9pt 肯定的回答 92.1%(全国91.9%)+0.2pt**



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

# 学びの変革の推進

## ICT機器の活用頻度と教科学力、個別最適な学びと協働的な学びの関連

### 児童

令和7年度 全国学力・学習状況調査 教科調査及び児童生徒質問

ICT機器の活用頻度	平均正答率(%)		「当てはまる」に回答した児童の割合(%)	
	国語	算数	個別最適	協働的
ほぼ毎日	<b>70.2</b>	<b>60.2</b>	<b>42.9</b>	<b>58.9</b>
週1回以上	69.1	59.0	36.3	51.9
週1回未満	63.1	51.9	29.7	43.8

### 生徒

ICT機器の活用頻度	平均正答率(%)		「当てはまる」に回答した生徒の割合(%)	
	国語	数学	個別最適	協働的
ほぼ毎日	<b>56.7</b>	<b>50.4</b>	<b>28.5</b>	<b>55.1</b>
週1回以上	53.4	45.9	21.3	44.9
週1回未満	48.8	39.0	18.5	39.5

※ICT機器の活用頻度については、「ほぼ毎日(1日に複数回)」「ほぼ毎日(1日に1回)」活用している児童生徒を「ほぼ毎日」、「週3回以上」「週1回以上」活用している児童生徒を「週1回以上」、「月1回以上」「月1回未満」活用している児童生徒を「週1回未満」として集計

※「個別最適な学び」の数値は、「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」

「協働的な学び」の数値は、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる。」に対し、

「1 当てはまる」と回答した児童生徒の割合

# 学びの変革の推進

## 安全安心な学習集団と個別最適な学びと協働的な学びの関連

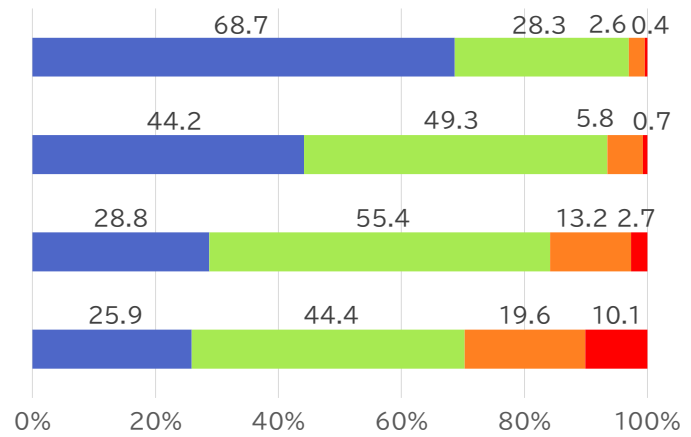
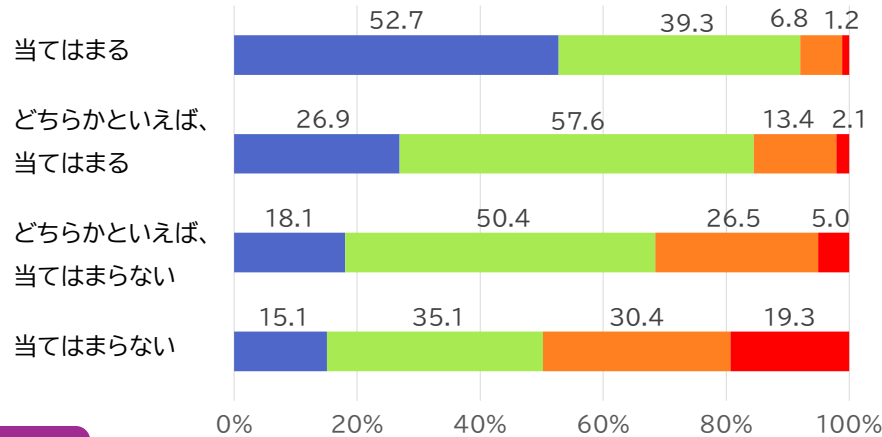
クロス集計 「学校に行くのは楽しい」×「個別最適な学びと協働的な学び」

### 児童

個別最適な学び  $r=0.344$

協働的な学び  $r=0.333$

学校に行くのは楽しい

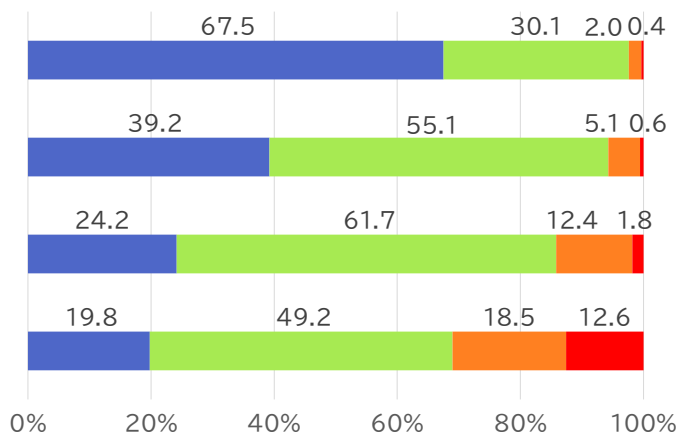
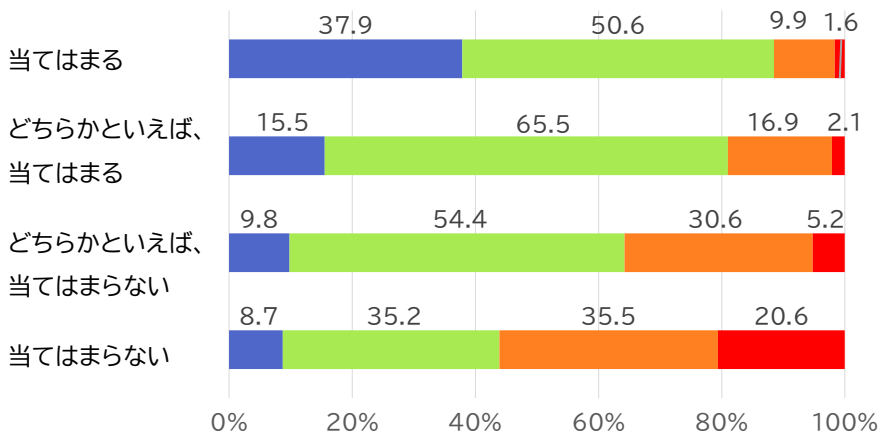


### 生徒

個別最適な学び  $r=0.308$

協働的な学び  $r=0.342$

学校に行くのは楽しい



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

# 学びの変革の推進

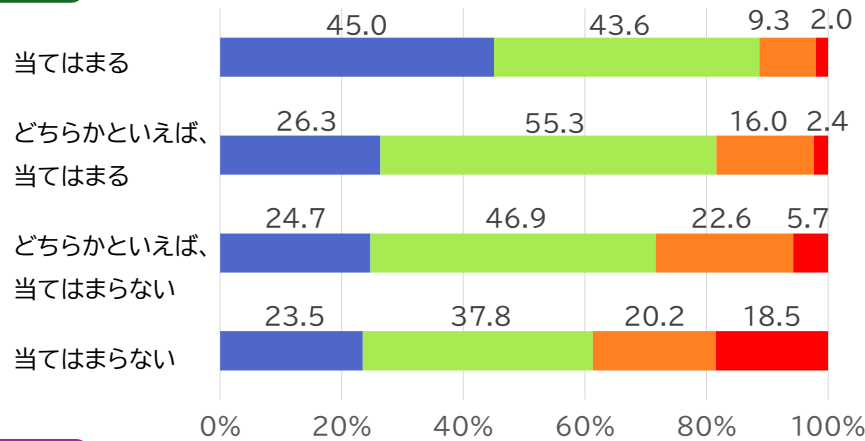
## 安全安心な学習集団と個別最適な学びと協働的な学びの関連

クロス集計 「友達関係に満足」×「個別最適な学びと協働的な学び」

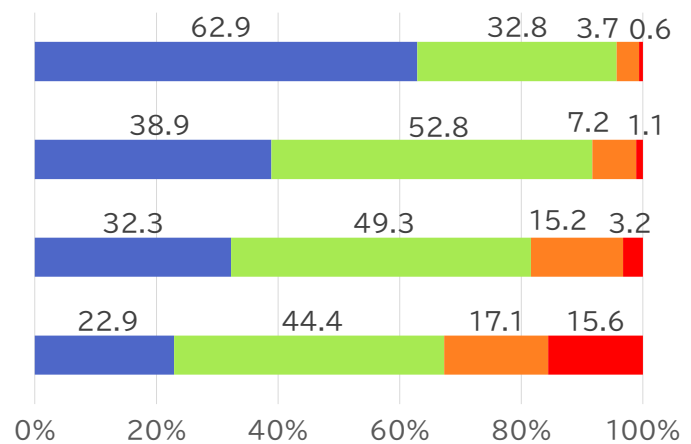
### 児童

友達関係に満足している

#### 個別最適な学び $r=0.200$



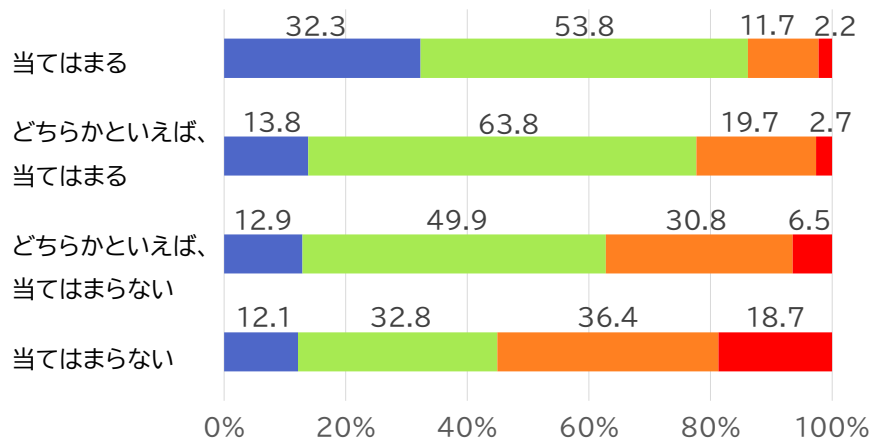
#### 協働的な学び $r=0.268$



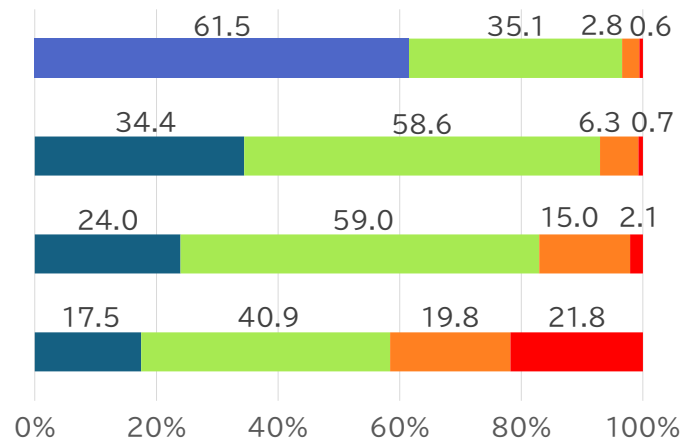
### 生徒

友達関係に満足している

#### 個別最適な学び $r=0.229$



#### 協働的な学び $r=0.301$



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

# 学びの変革の推進

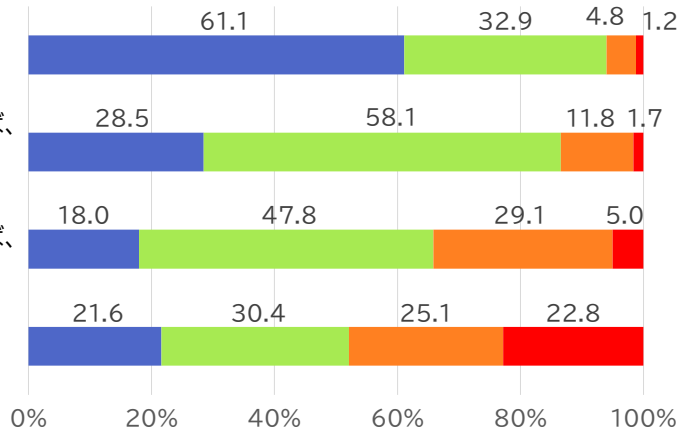
## 安全安心な学習集団と個別最適な学びと協働的な学びの関連

クロス集計 「学級では互いの意見のよさを生かしている」×「個別最適な学びと協働的な学び」

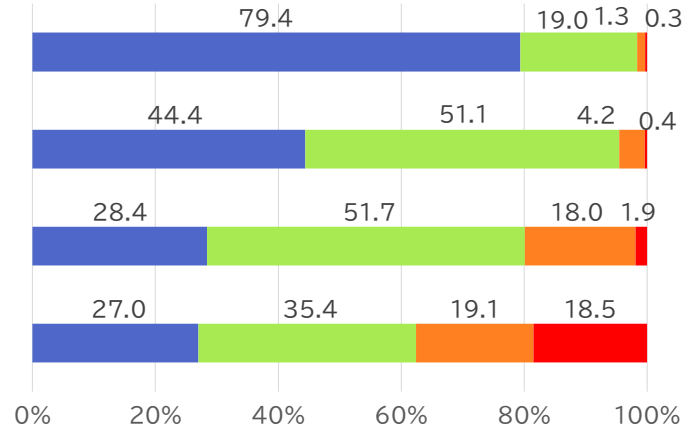
### 児童

学級では互いの意見のよさを生かしている

#### 個別最適な学び $r=0.377$



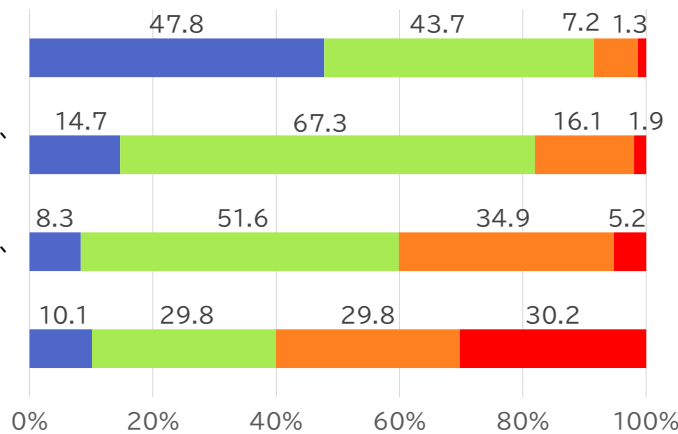
#### 協働的な学び $r=0.421$



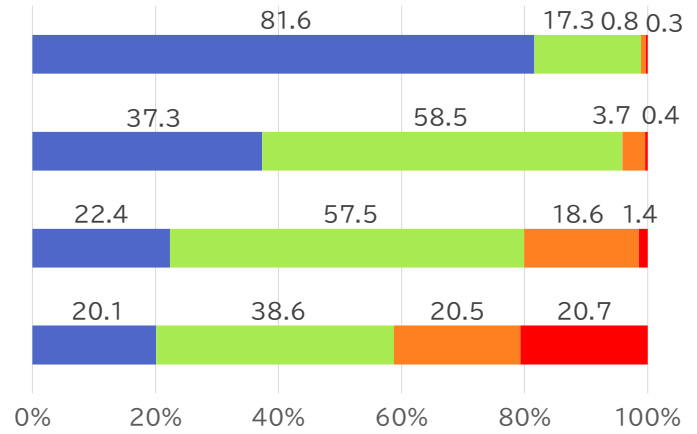
### 生徒

学級では互いの意見のよさを生かしている

#### 個別最適な学び $r=0.374$



#### 協働的な学び $r=0.437$



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

# 学びの変革の推進

安全安心な学習集団 × デジタル学習基盤の普段使い × 個別最適な学びと協働的な学び

## 資質・能力の育成

### 主体的・対話的で深い学び

(31)授業で工夫して発表していた

(32)課題の解決に向けて、自分から取り組んだ

(33)学んだことを生かしながら考えをまとめていた

(35)話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした

(36)学習内容を見直し、次につなげた

(37)授業で学んだことを実生活に生かすことができる

(40)総合的な学習の時間で探究的な学びに取り組んでいた

### 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

(34)自分に合った教え方、教材、学習時間だった

(39)協力して課題の解決に取り組んだ

相関係数 小学校  $r=0.533$   
中学校  $r=0.480$

相関係数 小学校  $r=0.568$   
中学校  $r=0.539$

### デジタル学習基盤の普段使い

(28)ICT機器の授業での活用

### ICT活用スキル

(29-1~4)ICT機器を使ったスキル

### 安全安心な学習集団づくり

(12)学校に行くのは楽しい

(14)友達関係に満足

(41)互いの意見のよさを生かす

# 学びの変革の推進

## 現 状

- 一人1台端末を毎日活用することにより、個別最適な学びと協働的な学びが充実し、学力向上につながっている。
- 個別最適な学びと協働的な学びの充実には、安全安心な学習集団づくりが重要である。

## 令和8年度「学びの変革」の取組の重点

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、安全安心な学習集団のもと、デジタル学習基盤の普段使いで、学びの質を向上します。

# 学びの変革の推進

## 令和8年度「学びの変革」の取組の重点

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、  
安全安心な学習集団のもと、デジタル学習基盤の普段使いで、  
学びの質を向上します。

## 重点イメージ

学習指導



生徒指導

重点

デジタル学習基盤の普段使い

個別最適な学びと協働的な学びの  
一体的な充実に向けた授業づくり

深い教材研究

個の見取り

個への支援

児童生徒の実態を踏まえた教材研究

アセスメントツールの活用

授業参観シートを活用した個の見取り

重点

安全安心な学習集団づくり

生徒指導の実践上の視点を  
踏まえた集団づくり

共感的な人間関係の育成

自己存在感の感受

自己決定の場の提供

安全安心な風土の醸成

褒めるから認める指導へ

学級経営・学級集団づくり

児童生徒同士、教師と児童生徒の信頼関係の構築

# 「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けてのポイント

## 深い教材研究

- 単元(題材)で育成する資質・能力を明確にしていますか。
- 児童生徒の深い学びを促し、教科の本質に迫る「単元を貫く問い」などを設定していますか。
- 児童生徒の思考の流れを想定した単元(題材)を構成していますか。
- 多様な個性・特性を有する児童生徒が存在することを前提として、授業において起こりうるつまずきとそれに対する支援を想定していますか。

## 個の見取り

- 児童生徒一人一人の興味・関心や能力・特性等を把握していますか。
- 授業において、展開や振り返りの場面で、児童生徒一人一人の学習進度や学習到達度、つまずき等を把握していますか。(形成的評価)
- 単元(題材)の終わりに、児童生徒一人一人が単元(題材)で育成する資質・能力を身に付けることができたか把握していますか。(総括的評価)

## 個への支援

- 児童生徒が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・学習方法・ペース等を選択できる学習環境を整えていますか。
- 個別最適な学びの中で孤立した学びに陥らないよう、また、協働的な学びの中で個が埋没しないよう、児童生徒一人一人に適切な指導や関わりを行っていますか。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けてのポイント

<https://youtu.be/uKJcArqhX4g>



# 生徒指導の実践上の視点を踏まえた授業改善の視点

## 共感的な人間関係の育成

- 生徒の話し合いが活発になるよう、話し合いの目的や視点を明確に示していますか。
- 互いの良さを認め合ったり、励まし合ったりするために、相互評価の場面を設定していますか。

## 自己存在感の感受

- 生徒の思いや願いを基に活動に取り組めるよう、学習過程を工夫していますか。
- 授業の中で生徒の姿を捉えて、具体的な姿を基に承認や称賛、励ましを行っていますか。

## 自己決定の場の提供

- 課題解決に向け、個人で調べたり、考えたりする時間を保障していますか。
- 生徒が自己の学びを実感し、新たな課題を発見できるよう、振り返りの視点や方法を明確に示していますか。

## 安全安心な風土の醸成

- 授業における約束事を、生徒と共有していますか。
- 生徒が自分の考えや思いなどを安心して表現することができるよう、互いに傾聴し合う雰囲気づくりをしていますか。

# デジタル学習基盤を前提とした授業改善

## クラウド環境等を活用した今後の学習環境のモデル

一人一台端末が整備される**前**

単元計画  
知識等...

教師

教師が児童生徒全員の状況を  
把握する

教師が必要に応じて  
協働する学習活動を仕組む

児童生徒

児童生徒

進捗管理シート  
レポート...

進捗管理シート  
レポート...

一人一台端末が整備された**後**

いつでも、どこでも情報にアクセスできる

教師がファシリテートしやすい  
児童生徒同士が必要に応じて協働しやすい

教師

様々な情報

単元計画  
進捗管理シート  
レポート  
知識等  
.....

児童生徒

児童生徒

## ■ 選択(個別最適な学び)

児童生徒自身が、様々な教材から自らに適した教材を選択することが可能に

## ■ 他者参照(協働的な学び)

自らの学びの手がかりとしたり、自分では気付かなかった視点を追加し、学びを今まで以上に深めることが可能に

## ■ 児童生徒の学びの見取り

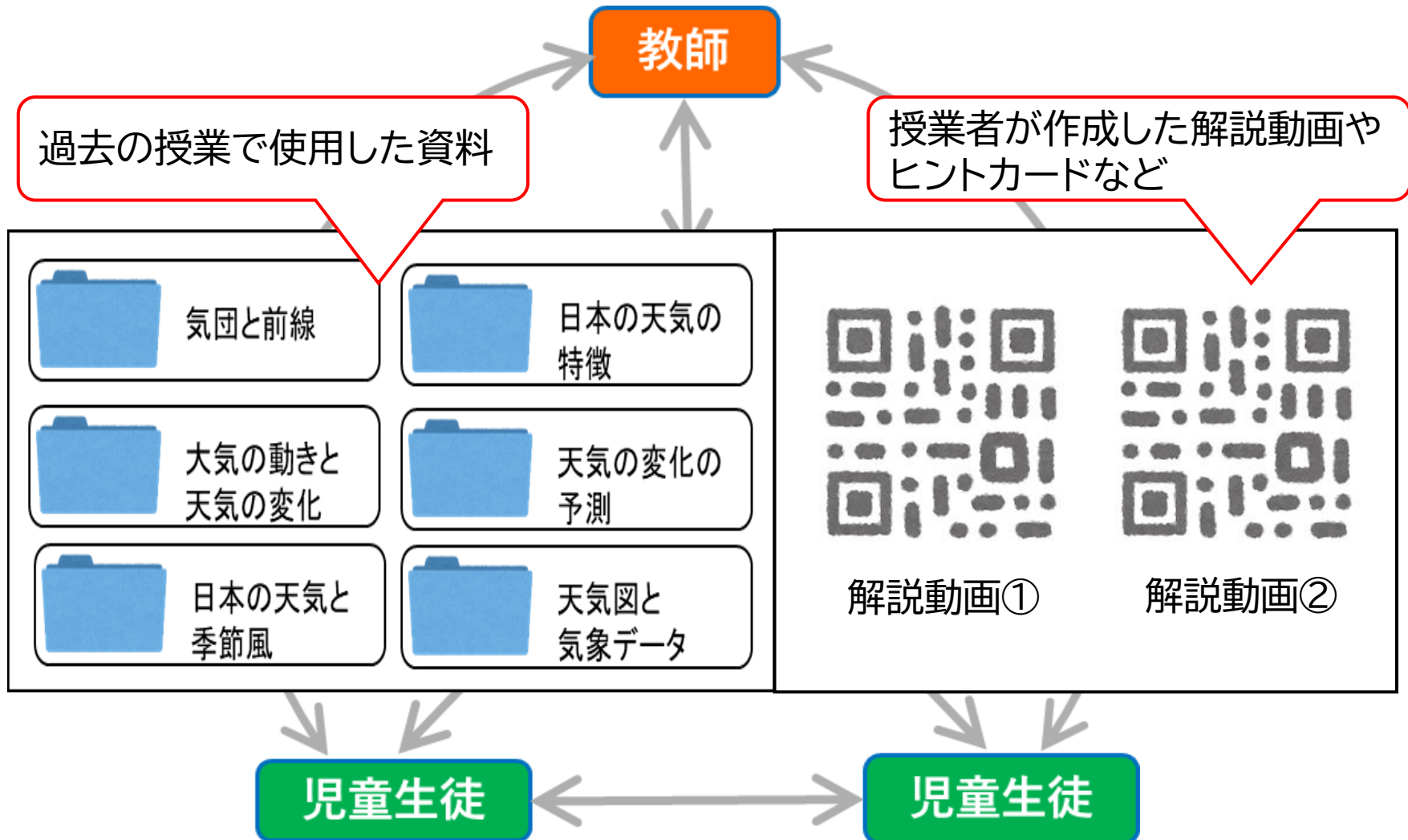
従来の机間指導のみでは困難であったクラス全員の児童生徒の取組状況や考えを教師が瞬時に把握することが一層容易に

**教師が計画的・意図的に指導することが重要**

# デジタル学習基盤を前提とした授業改善

## ■ 選択(個別最適な学び)

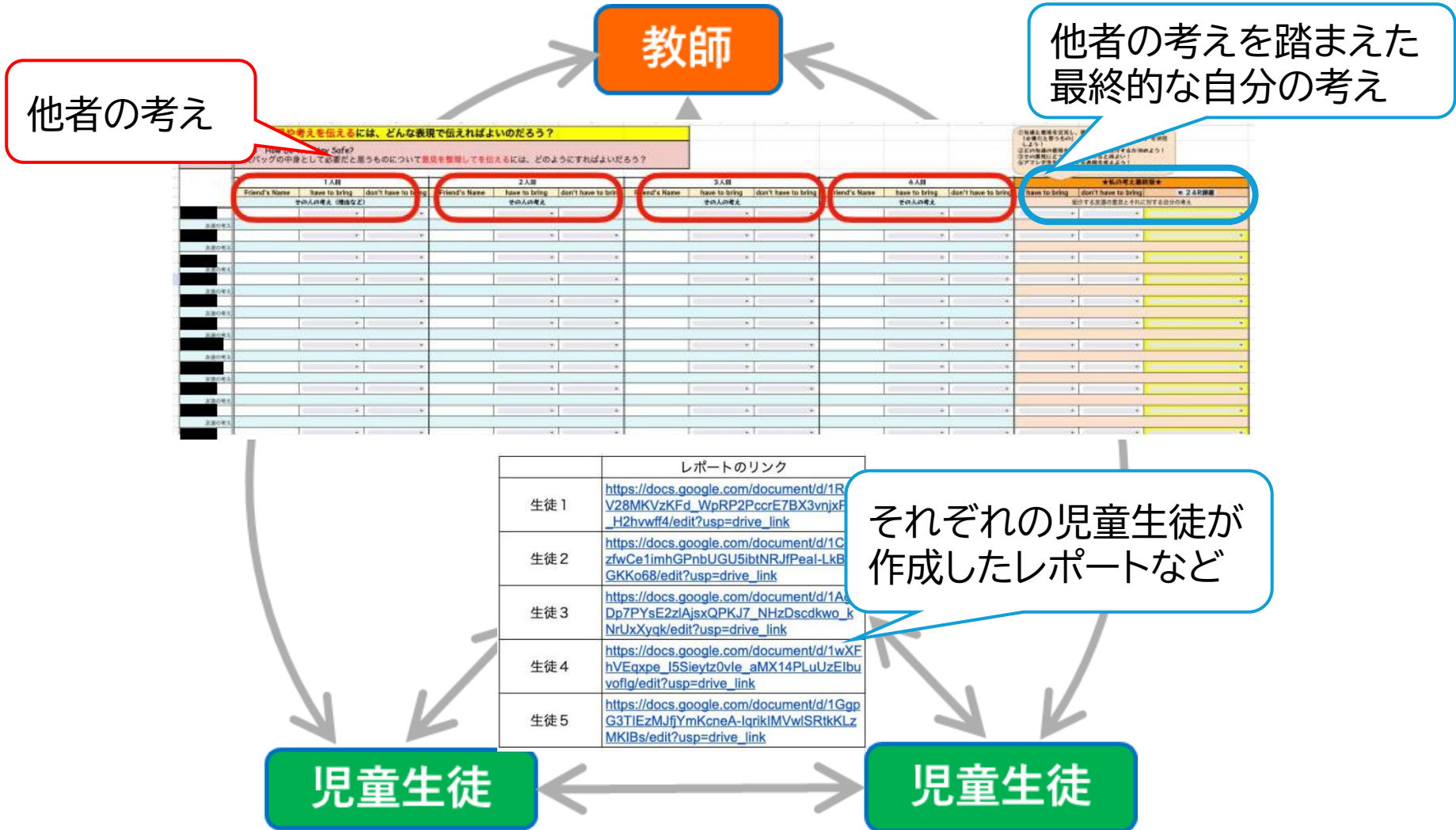
児童生徒自身が、様々な教材から自らに適した教材を選択することが可能に



# デジタル学習基盤を前提とした授業改善

## ■ 他者参照(協働的な学び)

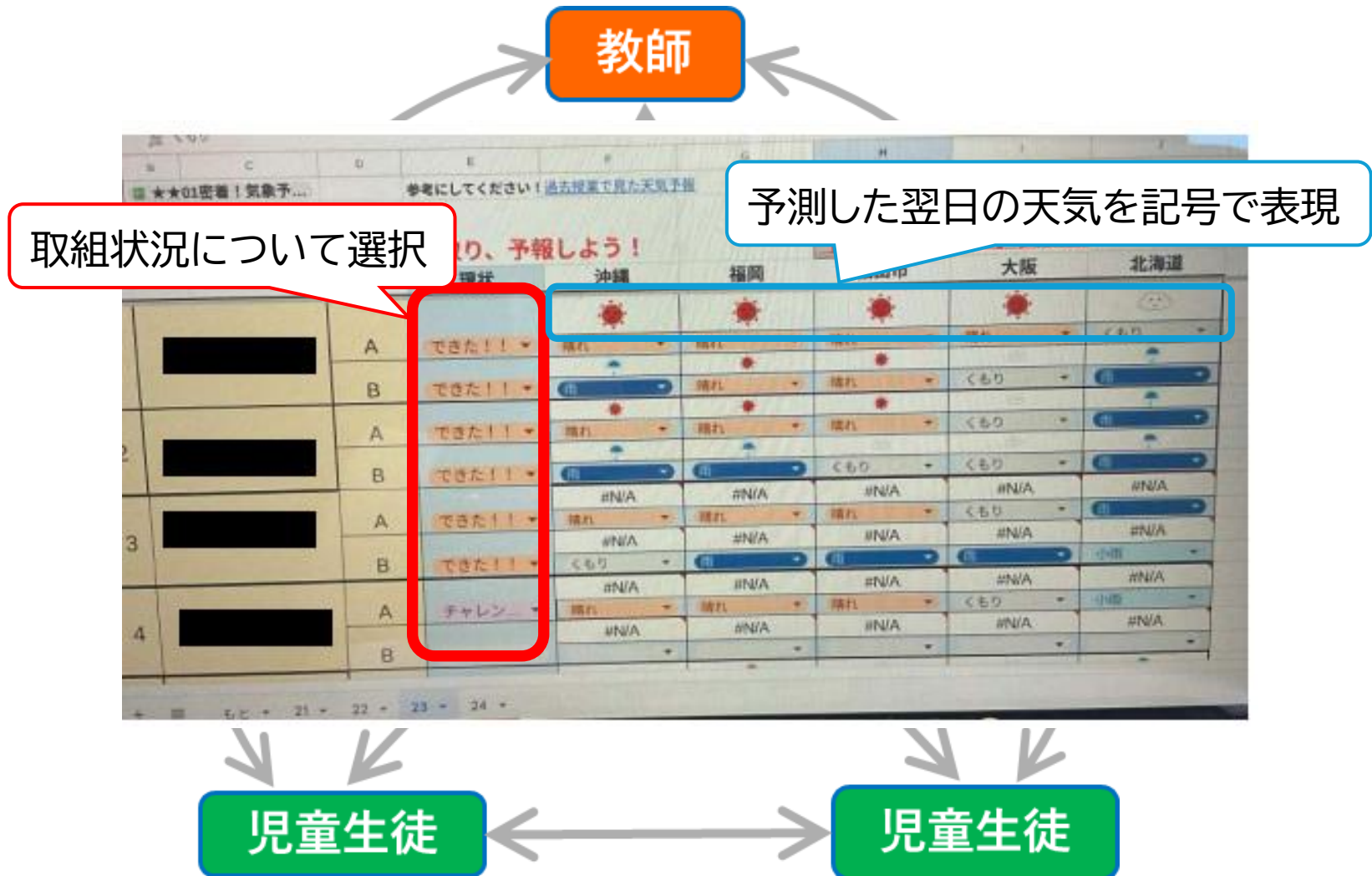
自らの学びの手がかりとしたり、自分では気付かなかった視点を追加し、学びを今まで以上に深めることが可能に



# デジタル学習基盤を前提とした授業改善

## ■ 児童生徒の学びの見取り

従来の机間指導のみでは困難であったクラス全員の児童生徒の取組状況や考えを教師が瞬時に把握することが一層容易に



## バーナード「組織の3要素」

・教職員は、対話を重ね、学び合い、支え合う関係になっていますか？

コミュニケーション

組織の成立に欠かせない3つの要素

貢献意欲

・教職員は、具体的な行動を通して貢献しようとするモチベーションをもちますか？

共通目的(ゴールとビジョン)

・「学校教育目標」や「育成すべき資質・能力」を教職員で共有していますか？

・教職員は、教育研究について、なぜ、取り組むのかを理解していますか？

# 人材育成に向けて

校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか

(「ほぼ毎日」と回答したもの)

全国学力・学習状況調査 学校質問紙より

(%)

		H27	H28	H29	H30	H31
小学校	全国	64.1	66.7	68.0	70.4	71.8
	広島県	77.2	78.2	80.8	82.7	80.1
中学校	全国	42.5	44.2	44.9	48.1	48.8
	広島県	55.8	55.2	56.4	54.4	54.4

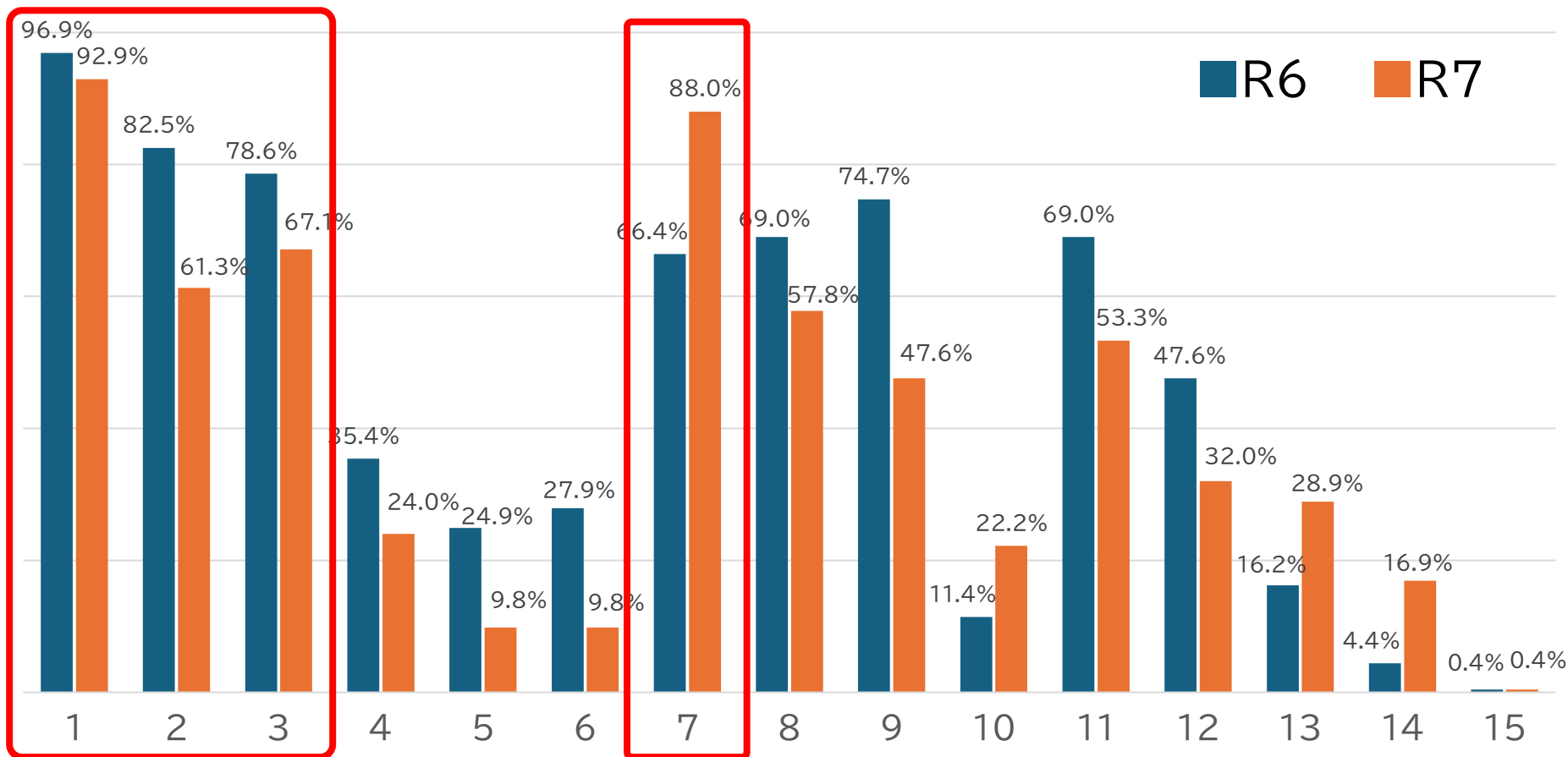
信頼とコミュニケーションにより、  
教職員一人一人のリーダーシップを育成する

児童生徒が主体的に学んでいる「姿」を取り上げながら授業を評価する  
～「学びの変革」の考え方は「学習者基点」が原則～

教職員が振り返りと実践のサイクルを日常的に行えるように支援する

# 人材育成に向けて

## 人材育成に向けて取り組んでいること



1 教職員への日常的な声かけ

2 授業参観やその後の指導・助言

3 校内分掌や業務の割り振り

4 校内の各種委員会への参画

5 地域やPTA等の外部との折衝

6 他校や教育委員会等との会議への参加

7 教職員同士のコミュニケーションの活性化

8 生徒指導等の具体的な場面における指導

9 授業研究

10 教材研究会

11 校内研修の充実

12 校外の研修の積極的な活用

13 校内でメンターとなる教職員を位置付け


14 校内でメンターチームを組織

15 その他

# 人材育成に向けて

## 人材育成に向けて手応えを感じた実践

- モデル授業や適切な生徒指導をメンターとなる主任層が示し、他の教職員がその姿から実地で学んでいる。
- 校内で核となるメンター教員を軸に、健康面で不安を抱える教員に対して能動的に相談体制を確保している。
- 生徒指導の事案が起きた際に、学年全員で対応を協議し共通認識のもと指導を行うことで個々の教員の安心感につながっていると感じる。
- 「授業」について語り合うような場を積極的に持つことで、コミュニケーションが活性化されると感じている。
- 授業研究を行う際に担当の教職員に任せて、管理職はサポートに徹した。
- 日常的に声をかけることで、教職員の困り感をつかむことができ、周囲を巻き込んで話題にすることができる。その中からヒントを得て実践につなげることができる。
- 教員が取り組みたい事柄について、目的や成果の見通しを整理しながら、その実現に向けて支援する。
- 週案簿に校長が感謝などのコメントを記入する。

- 
- 教職員の関係性や同僚性の構築
  - コミュニケーションの活性化
  - 組織で取り組むための参画意識の向上
  - メンターの位置付け
  - 授業力向上のための研修や授業参観、研究授業におけるお互い学び合う体制づくり
  - 校長による教職員への日常的な声掛けや肯定的評価

# 教育課程

年間1,086単位時間以上（標準総授業時数1,015単位時間）

## 標準を大きく上回る時数の教育課程を編成している学校の割合

(全国平均)

(令和7年度計画ベース)

小学校5年 1.8% (昨年度 17.7%)

中学校2年 2.5% (昨年度 15.2%)

(都道府県別)

都道府県名	小学校5年	中学校2年
北海道	0.1%	0.0%
青森県	0.4%	2.8%
岩手県	0.0%	0.7%
宮城県	0.0%	0.0%
秋田県	4.2%	4.9%
山形県	0.0%	2.1%
福島県	0.0%	4.0%
茨城県	0.0%	5.8%
栃木県	0.6%	3.4%
群馬県	4.1%	5.2%
埼玉県	0.9%	0.9%
千葉県	4.1%	2.9%
東京都	1.5%	1.7%
神奈川県	2.5%	2.3%
新潟県	11.8%	14.1%
富山県	0.0%	0.0%
石川県	3.1%	2.4%
福井県	3.4%	3.0%
山梨県	3.7%	3.9%
長野県	7.6%	3.3%
岐阜県	0.9%	6.9%
静岡県	0.0%	0.0%
愛知県	1.0%	5.8%
三重県	0.0%	0.0%

都道府県名	小学校5年	中学校2年
滋賀県	0.0%	0.0%
京都府	0.0%	2.1%
大阪府	0.0%	0.7%
兵庫県	2.0%	2.4%
奈良県	1.1%	0.0%
和歌山県	0.0%	0.0%
鳥取県	3.4%	7.4%
島根県	0.5%	2.2%
岡山県	1.9%	5.3%
広島県	7.0%	3.6%
山口県	2.0%	2.2%
徳島県	3.8%	2.6%
香川県	6.0%	4.8%
愛媛県	0.0%	0.8%
高知県	0.0%	0.0%
福岡県	0.0%	0.5%
佐賀県	9.1%	9.2%
長崎県	1.4%	3.8%
熊本県	3.0%	5.1%
大分県	5.0%	5.3%
宮崎県	0.0%	0.0%
鹿児島県	0.0%	1.0%
沖縄県	0.0%	1.4%

(政令指定都市別)

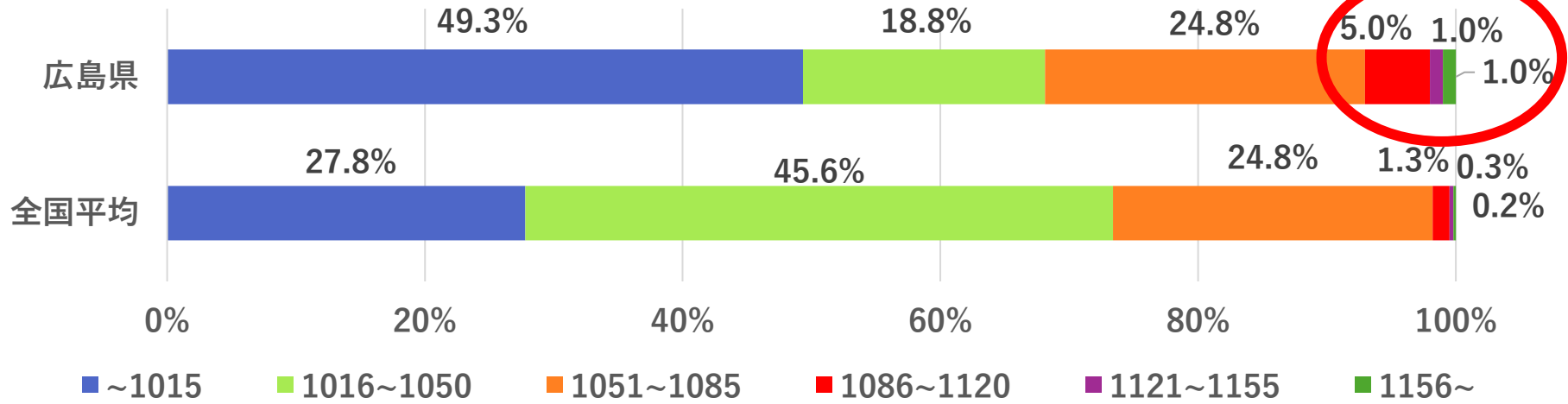
政令指定都市名	小学校5年	中学校2年
札幌市	0.0%	2.1%
仙台市	0.0%	1.5%
さいたま市	0.0%	3.4%
千葉市	0.9%	5.6%
川崎市	0.0%	0.0%
横浜市	0.0%	0.7%
相模原市	0.0%	0.0%
新潟市	0.0%	1.8%
静岡市	0.0%	0.0%
浜松市	0.0%	0.0%
名古屋市	1.2%	0.9%
京都市	0.0%	1.4%
大阪市	13.8%	7.0%
堺市	0.0%	0.0%
神戸市	0.0%	0.0%
岡山市	0.0%	0.0%
広島市	3.6%	1.6%
北九州市	0.0%	0.0%
福岡市	0.0%	1.5%
熊本市	0.0%	0.0%

# 教育課程

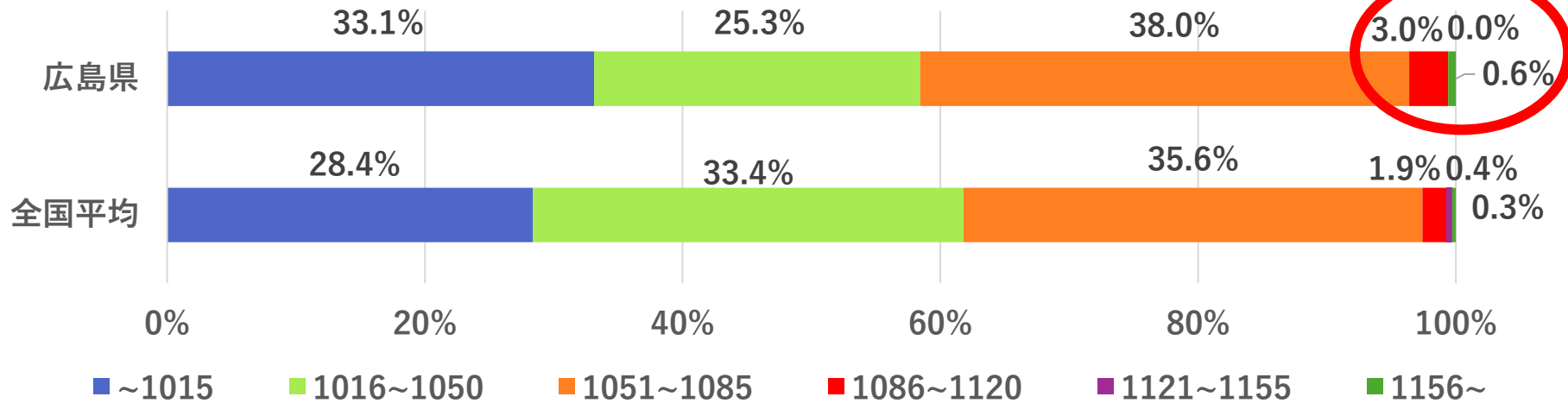
## 令和7年度の授業時数等【R7計画】

○ は年間1,086単位時間以上

### 小学校第5学年



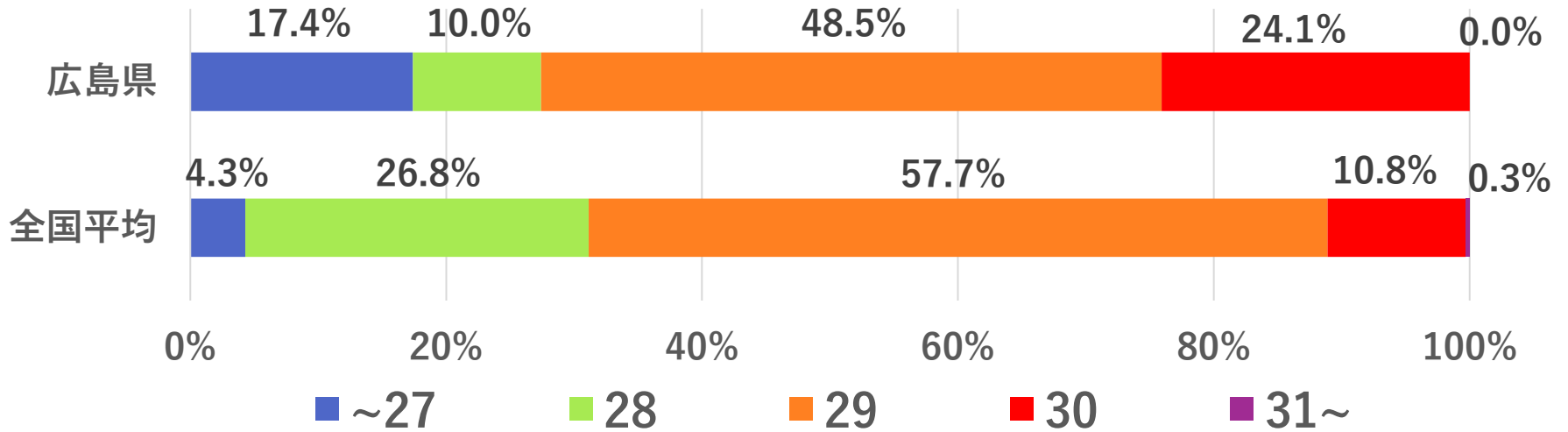
### 中学校第2学年



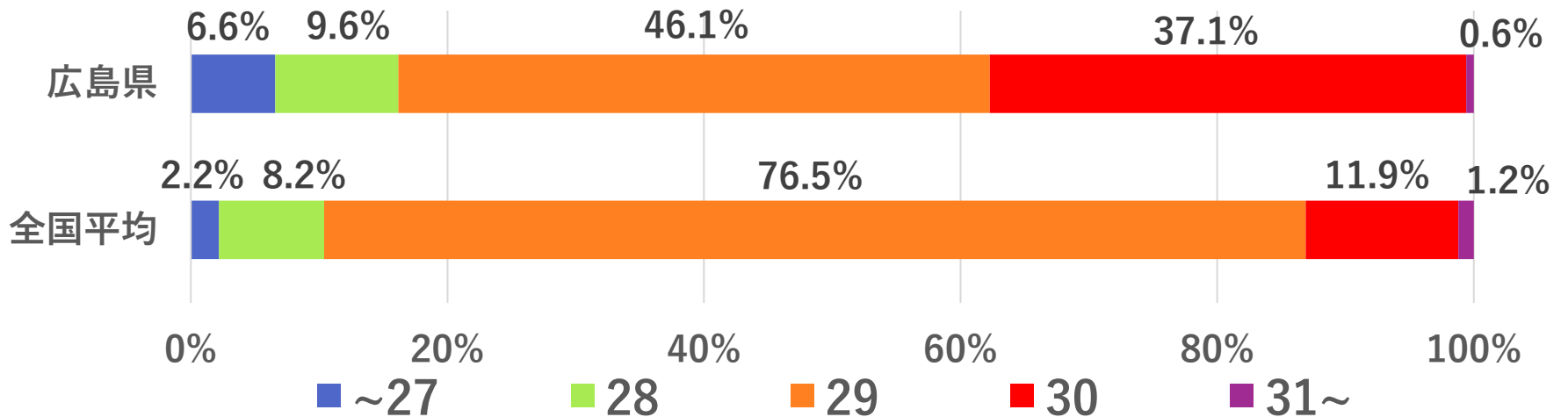
# 教育課程

## 令和7年度の授業時数等【R7計画】 週当たり授業時数の状況

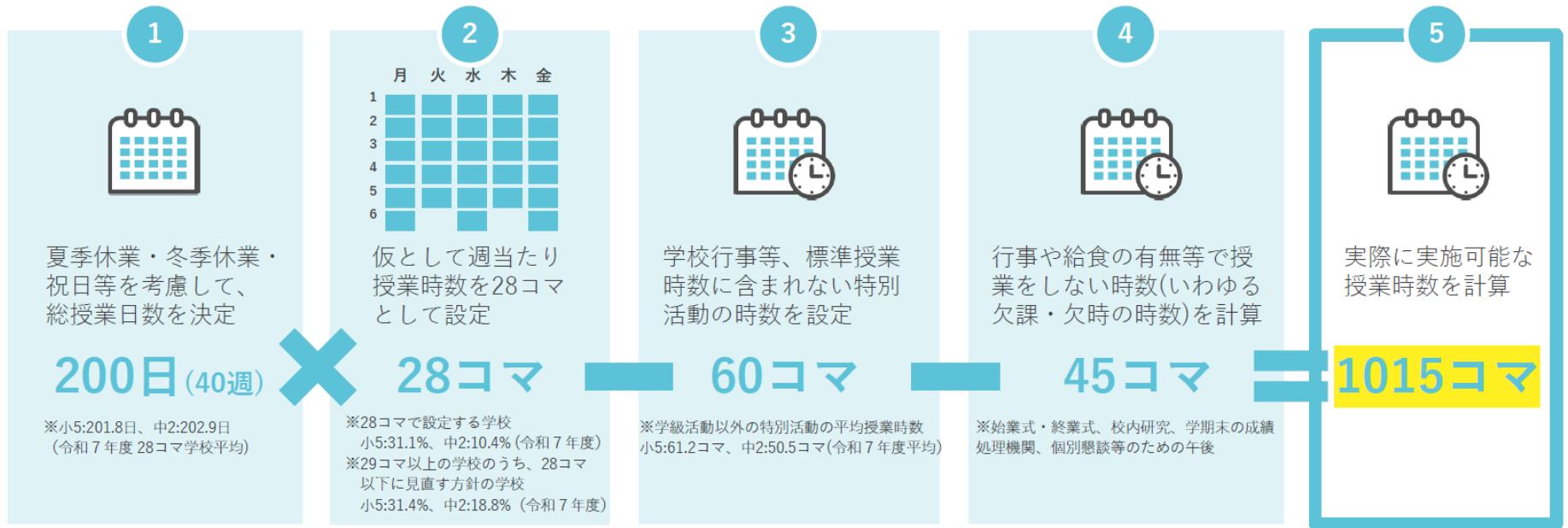
### 小学校第5学年



### 中学校第2学年



# 教育課程



必要に応じて、授業日数、学校行事等、欠課の時数等を柔軟に見直し、調整することで、現行教育課程の下でも、標準授業時数ベースの各教科等の時間を1015コマ程度として週28コマでの編成が可能

教育課程企画特別部会 論点整理 ポイント資料詳細版より抜粋

授業時数を増やすのではなく、授業の質を問い直す→子供が自ら学ぶ姿

- 学校の実態に応じて、カリキュラム・マネジメントに取り組む。
  - ・ 真に必要な時間かどうか精査し、教育課程全体を見直す。
  - ・ 教科等ごとに指導時数や指導内容などを見直す。
- 一人1台端末等を子供自身が効果的に活用して学ぶ。

# 教育課程

## 調整授業時数制度の創設



1

各教科の標準時数を下回ることができるようにする

2

調整授業時数を他教科等に上乗せして活用できるようにする

3

調整授業時数を「裁量的な時間 (※)」に充てられるようにする

4

「裁量的な時間」の一部について、教育の質の向上に向けた、授業や指導の改善に直結する組織的な研究・研修等に充てられるようにする

5

調整授業時数を特に必要な教科の開設に充てられるようにする

# 全ての児童生徒の資質・能力の育成を目指して

改めて共有すべき2つの大きな視点

カリキュラム・  
授業づくり



人材育成



今日、求められている「チーム」は固定した構造を持つ「組織」ではない。

「組織」をつくることよりも「チームワーク」を作り続けることを考えなければならない。

チームング(エドモンドソン、2014)